



總本家の政友會 舉黨一致の醜争 石城政友の不統一

舉黨一致といふ世の中には是れは又、舉黨一致して醜争に没頭し日夜血眼になつて奮闘しお互に事務所まで設けて買収三昧に余念がないと云ふに至つては沙汰の限りと謂はざるを得ない、總裁たるものは一年に少くとも三十萬圓の大金を黨の世帯費として要し、これを苦面する事に於て金持の總裁をかつぐ所以と金持ならざる總裁が現有調令手段に不純が生ずるを恐る事になる、彼等は来るべき二十日の黨大會に於ける公選を發表して居るけれどもどうやら妥協が付くらしい、即ち總裁の椅子の争奪乃至は買収戦を演じたまま、卒直に謂へば地位の争奪、名聞の争奪、權勢の争奪、面目の争奪である。

斯くして政黨は愈々政治の

（行發日五十月一回二月毎）
 定價 一月一元 三月三元 半年五元 一年十元
 廣告費 第一版一日一角 第二版一日八分 第三版一日五分
 印刷所 磐城新聞社
 電話 七九七九

明年の縣議戰 石城郡一名増員

と今より何んとか考へて置くべきことであらう。

現在の石城郡は平市を除いて郡部人口十九萬九千二百八十五名なるより縣議選出は六名となり市部を加へて七名を出すこととなる従つて明年九月の選舉に於ては應る興味を湧かせる民政は郡部より現議員小松章氏の再選かそれとも菅清章氏の再出馬か或は坂本龜太郎、成瀬巴三、生天目信次郎、五氏の中から決定することならん中郡部より現議員藤田北郎及び山の手を地盤として草野三郎現議員の再選と大休に於て異論ない處であらう、同じ民政にしても野崎謙藏現議員は平市會議長と云ふ立場に拘泥なしに郡部よりの出馬となれば民政は四名の中必す一は落選の憂目を見ること請ふで又三名候補の場合には安々と當選の榮冠を得るであらう

政友派は小野平氏の再選は自他共に許し又氏の手腕力量と其の人氣に於て安全候補の第一人者である郡部からは勿來町赤津庄兵衛氏が復讐すれば同候補として出馬することとなるべく若し此の恩典に浴せぬ時は山崎登氏になることは疑いの余地がない中郡部からは選挙権藤田氏の再出馬は豫定の行動となるべく郡部よりは木村守江氏の凱旋するかしないかに依つて四名となり或は三名となるので政友三名ならば榮冠は出るのである、政友三に民政四なれば民政の敗北となり政民四つ、なれば各一名宛の落選者を出すことであらう、市部一名の平市よりは現議員關内正一氏の再選は市民一般の輿望でも強い勢力を有して居るものゝ如し此處に野崎氏が市議とすれば選挙の中心は殆んど兩氏の競争によつて最高潮に達することであらうから興味は百パーセントである

湯本町長後任問題

湯本町長石川徳義氏の急逝によつて後任町長として助役中里太郎氏の昇格説と湯本無黨事務として町議比佐賢司氏と入山探炭會計師關原道氏との三名が物色されてゐるが中里氏は高木、小泉、石川の各町長の助けたる事約二十年で自治政に對し頗る通曉してゐる比佐氏は無黨の支援あるも中里氏は親戚關係にあるより結局は助役昇格に奔走することであらう關原氏は入山議員と政友議員が一丸となつての擁立であるが數に於ては過半数に達せざるも町と炭山との關係を説きつゝあるものゝ如し何れにしても来月上旬迄には決定することであらう

政友騷と本縣選舉者の立場

政友會總裁公選騒ぎで本縣の選舉資格者は所屬政黨現議員と支部代議員連瀧龍樹、富田勘之丞氏であるが支部長堀切善兵衛氏が中島氏支持派であるから大休それに決定する模様としても堀山氏の參院格たる富田光雄氏と金成貴族院とは從來特別關係からして氏の

明年貴院出馬

明年行はれる本縣貴族院議員に田子健吉氏立候補する模様あつて其準備中との噂から政友が政治的に一時鳴をすつめ居りしは是れが爲めか。

植田・福島兩電

合併認可か夫共不認可か 株主總意の頑張り 遂に最後の勝利か

植田水電と福島電燈との合併
臨時株主總會は来る二十二日
であるが内容の實質は既に決
定して居るので、單に其の形式
の方法を探るに過ぎない。然るに
監督官廳の仙臺通信局は合併
申請に断然反對意見を發表し
たが、運信大臣は果して認可を
するや否や電氣統制法が民意
を尊重せず、地味關係に多く
の重疊を置く場合に於ては私
有財物の干渉、或は壓迫とな
り思想の上にも悪影響を及ぼす
ことにもなり、又國策遂行に民
意が従はざるに於ては官廳の
威信が墜れることともなる
のである。此處に至つて今度の
兩社合併問題の解決は天下に
張大なる波紋を起すこととな
り非常な見物なのである。

水素工業 の内容

本縣特に石城郡地方に於ては
日曹關係が近來活躍する
されて居るが其の中でも小名
濱町の日本水素工業會社は新
設工場に大努力をかけて居る
資本金三千萬圓に達する七十五

萬圓で年内に操業開始の豫定
である。第一期計畫として硫
酸中心の化學事業である
萬圓、メタノール三千圓、硫
酸九萬六千圓、硝酸五千圓の
製造が行はれる。將來は水素化
工業、液體燃料其他の化學工
業方面へ進出する目論見な
うである。メタノールとは工
業用アルコールで之は海軍燃
料廠の特許を使用許可されて
居る處に強味と特長が認めら
れるのである。企業豫算は第
一期事業資金として千八百五
十萬圓で内訳は土地買収費十
八萬四千圓、建設費二十一萬一
千四百圓、多量の敷地を存在し
て居る。思はれる建物百六十
七萬九千二百五十圓、機械機
械一切で千四百四十萬圓、
六千五百圓に豫備費及流動資
金として百三十五萬圓を計上
して居る。工場建設費は一千六
百十五萬圓である。豫定の豫
算を以てすれば二回三回と擧
げをせざる限り既に千百萬
圓の負債を起さざるを得ない
のである。一年の收入計算が一
千二百五十萬圓に對し、支出

日曹關係

田子氏將來

石城郡と關係深い田子健吉氏
は新聞界より見事の轉身振り
を電氣界になして、神川電力會
社社長に就任し、ついで今同
業界に躍進し來つたが、今日
曹中野社長と締結し、全部の發
電力一萬三千キロを日曹電力
工場に供給し、湯村の四個所
の發電所から送電すること、
なつた。今度は居住する福島市

郡南自動車王

生天目信次郎氏

自動車協會植田支部副支部長
生天目信次郎氏は勿來町會議
員として四期を勤め、公人とし
ての存在も實に大なるものが
ある。信念に強く、且、策士なる
が故に時に或は誤解される場
合もなしとせよ。

植田町を中心として植田岩間
入組、平澤、窪田、小川行
沼部、勿來、大日本炭礦
小川行の乗合やトラック、貸切

破産磐越銀行預金

好間村が仙臺屋を假差押へ

平市南町に在りてあつた磐越銀
行は破産清算中であるが、昨年十
二月廿四日同を平市南町事務所
支部に提供して好間村役場は
決議を以て合法的に一丁目仙
臺屋、仙臺屋、明智屋、不動產
を元合計一萬三千圓の預金
に對して假差押をなし、假差押
手續回を重ねて居る好間村は
山野、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、
内容は、好間村が表前々々々々
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、

竹島劍峰氏

戦時下に於て、誠實を以て、少
しく浮世離れして、書道に親し
んで居る竹島劍峰氏は、内郷村
宮に居る。

書道の達人

書道に志して、幾十年、法書院
に入道し、斯界の權威者とな
つた氏は、大家のものを、見習
ひ、臨書を採らず、自給自己を
撰すべく、自選を、選ぶに努力し
て居る。大先輩の臨書には、よ
く参照して、明治時代の、鳴鶴
や、一六居士、昭和の現代で
は、比田井天来、豐道、海、高
田、竹山、其他の書風には、御事
として居るらしい。有志の進め
により、大家の城に入つた、劍峰
氏は、近く書會を平市に開くと
のことである。

年未だ大審院は銀行破産に付
いて當時の重役に若し過失あ
りとせば其の損害に對しては
責任ありとの判決例がある。と
のことである。其が、現時に於
て大審院に對して、銀行破産
更生の管へとしての重役連署
を以て、一札の證書が今度の問
題の證據となつてゐるとの事
である。若し夫れ原告側の勝訴
となれば、是を契機として、地
方財界は大波瀾を卷起すること
であらう。

石城郡自治要務出版

平市南町に在りてあつた磐越銀
行は破産清算中であるが、昨年十
二月廿四日同を平市南町事務所
支部に提供して好間村役場は
決議を以て合法的に一丁目仙
臺屋、仙臺屋、明智屋、不動產
を元合計一萬三千圓の預金
に對して假差押をなし、假差押
手續回を重ねて居る好間村は
山野、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、

好間村が仙臺屋を假差押へ

平市南町に在りてあつた磐越銀
行は破産清算中であるが、昨年十
二月廿四日同を平市南町事務所
支部に提供して好間村役場は
決議を以て合法的に一丁目仙
臺屋、仙臺屋、明智屋、不動產
を元合計一萬三千圓の預金
に對して假差押をなし、假差押
手續回を重ねて居る好間村は
山野、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、
野田、藤田、仙臺屋、明智屋、

大瀧發電所

工事建設問題

平當局の會社の協調點

平電氣株式會社の大瀧發電所建設問題は去大正十二年未會の臨時事件を惹起したのであるが當時行政訴訟の結果町の取柄となつてゐる關係上から今回の會社から『計畫變更』に工事進行認可申請の提出に對しても町議連中あまり見解の意見を口外しない處を見ることが出来た。それとも何等かの準備工作に誠意を出して居るのか表面は至つて平靜を見せ居るが當局が平市への許可を發する場合は單獨許可の手續に出るかさも推知し得られない然し許可は自治體の權威を認めて當然發すべきが妥當と思はれる。此時に於て市と會社側

地方資金

石城地方で親銀行として活動してゐるのは植田の磐東銀行であるのみで平市を初め各町では全く支店銀行に依つて貸出よりは預金の地方資金の縣外

化として地方の金を持ち去られ行くのだから地方資金の減少である。これは考へようによつては地方資金の枯渇となり農村疲弊となり財界に梗塞を來たらしめるものである。整理は全々情味の薄さを痛感させるものがある決して等閑に付すべからざる問題である支店なり出張所銀行なりが價

る不安を除去するの完全な事をなし一面市への責任ある考慮を拂ふ場合は紳士協約を締結するも敢て不條理ではあるまい。而して議員は情實の劣悪が存在して事を許してはならぬ問題。問題を政策化したり事業そのもの、準備は固じて許さないよろしく自治體の神聖を保持し愚見を放つて權威を蹂躪することなく市民の福利を圖り以て是非々々主義でなくてはならない。常時事業と財源とに留意して市勢發展に努力するのが當然である。今度の問題の如きも此所に思ひを出して以て解決すべきであるが反對者の意見も尊重すべきである。

某市議談

大瀧發電所問題に關し某市會議員は去大正の如き意見を述べ居る。

金と貸付金とを比較對照する時、後者が前者より多額に外から居ることは決して推知に難からざる所であつて、これは支店出張所設置の元來の目的が地方の利益を計らんとするが爲めの貸付に非らずして地方の利益は其預金の本店經營に吸収するが當然の結果だから仕方のないもの

石城地方のお醫者氣質

開業醫の經濟がだんく苦くなつて行くようである。醫者仁術は醫家は長補だと自ら尊びて居る時代の外に超然たりしは過ぎたやうな氣がするから、どうしても之れからの醫者は時代に順應した經濟對策で奮勵定行かなざるやなるまいが去りとして却定づつて臨床する者にもさきである。

現在では醫師は診察室から街頭へ進出しなければならぬ。治病療疾の積極的態度から保健向上の積極的運動へ其の職責は可成り重大性があら

である。是れ地方金融の減少とも云ふべきもので甚だ芳しからざる現象と謂ふべき也。地方資金の効果は現時的に利用してこそ其の價値も亦處るものとなつて來るものでこれ明瞭にして且効果的である。此處に於て地方の金が出張所や支店を経て縣外本店に持ち去られる實情は大なる遺憾を

るが爲めの反對ではないの。只會社本位に實成は出來ないのである。大いに國家總動員非常時應急休制進行を考察して、事業と地方振興に重要な意義を理解すると共に市の平和とそれ以上一步を進めたいのであるから此點を多くと考察して

然るに健康保險などの中には規定の料金をよりか取れないので兎角患者を冷かに取扱ふには遺憾せざるを得ない。最も彼等とても商賣だから醫道美談よりは懐中談の方がよいのであらう。

にはこれ以上の適切な妙策はあるまい相互扶助保險機關易な金融機關たる無盡を利用することである。或や口先きばかりの郷土愛の金融論は恰も泣く兒に乳を與へぬやうなもの。日干の觀がある。地方人と銀行關係はよく検討することが緊要事。今日の銀行は中流以下の者とは他人行儀也

小額資金

確實な組合組織出資小額利益は高率優良株買買による絶対安全の方法

安全高率利殖之妙諦

「利殖之妙諦」未だ御覧にならぬ方は、東京市日本橋區兜町二ノ二九「大和證券投資協會」へ御申込になれば早速贈呈します。又、「利殖之妙諦」記述に就て御疑問あれば御質問下さい詳細に御説明御回答申上げます

名所産業 歌行脚集

ひげ郎著

西六判 三百五十頁 定價 壹圓五十錢 (目下發賣中)

印刷所 平市仲町 大和田印刷所 發行所 原ノ町南新田、東北民話研究会本部 販賣取次 平市仲町 磐城實業之社

著者の辨

縣下市町村役場を始め有志の方々から多大の御援助を願ひ、名所産業を訪ねて歌行脚を續ける事茲に五年、朝鮮、滿洲、上海方面を始めとして縣下一圓を巡り樺太、北海道に足跡したるものを著述編纂したのです切に御愛讀を乞ふ。

印刷所の辯

活版印刷物、特に書籍に至つては讀める事が第一義ではありませぬ「先づ良い機械を、そして良い活字を」それが今日の活版印刷所の心構へなのです。此の意味に於て「ひげ郎さん」著書は印刷屋として出版界に一人前の顔を出せると思ひます

養狸希望者に警告

副業の王座として一般御家庭何方にも御奨め出来る狸の養殖は他の副業に比して設備に於て簡單、飼料安價、極めて強健、誠に訓れ易い、趣味のある可愛い動物であります。其飼育法も最近色々と研究され、其生産法も至つて確實の域に達しつゝあるのでも容易に飼ふ事が出来るのであります。即ち努力と飼料の僅かな點に於ては他の如何なる副業も是れには及ばない、たゞ狸の價値が今後何程低下しても必ず引合ふ有利な仕事と思はれますから副業と言はず、正業にされても充分収益を見て行く事が出来ると思われます。さて其飼育を初めるには先づ狸の選定が何より大切であります。從來は狸でさへあれば少しも他を顧みない状況でありましたが是れから先は何をおいても「狸の選定」を誤つてはなりません。同じ内地産でも、東北産と關西方面ものとは毛皮に於て東北産は「其値は倍價」に取引されて居ります通り其毛質、型態、品質等全く我東北産には當抵比較にならないのであります。斯うした種々の意味から既に農林省に於ては岩手縣に國立毛皮獸養殖所を設けられ専ら東北系の養殖に着手されて居ります。又本縣縣内にも縣養狸組合聯合會を設かれ農林省より助成金を受けつ、「優良東北系」の養成に勉められ、傍ら他縣からの輸入防止と「傳染病の豫防」とに最大の努力を拂つて居ります。而して近い將來には各組合に對し種狸の貸付けを行ふ手筈になつて居ります。昨年中通方面に傳染病として最も恐る可き「チステンパー」が發生して各飼育者が非常な恐怖を被つたのであります。其傳染系統は靜岡並に關西方面から輸入されたもの、内から發生した事は當時の新聞にも發表されました通り充分此の點に警戒を願ひ度いのであります。要するに我々は東北産品と言ふ自然の恩恵に恵まれて居るのでありますから御互に自重し「縣外不良種の輸入を防止」しなければ折角の弊價を落すのみならず組合の目的たる「品種の改良」と協同販賣に大なる支障を來す事は申上るまでもありません。此の點充分に理解せられ、今後斯業に志すの御方は決してブローカー等を煩せざるは勿論、素人等の勸誘に乗ぜられ購入する事なく一應必ず當組合「植田町農會内」に御相談下さい。必ず皆様の御期待に添ふ様各位の御希望に應じ直接其飼合に案内、親しく其飼ひ方状況や狸の動作並に其習性等を調べられた上に御世話する事にいたします故御心配なく御利用下さい。尙参考まで本組合の事業を左に記します。

- 一、品種の改良増殖を計る爲め講話會並に批判品評會を開く
- 二、狸の販賣は組合に於て統制し之れが幹旋をなすものとす
- 三、飼料其他の必需品の共同購入
- 四、組合員にして其所有狸死亡に際し其共濟法

以上

植田養狸組合(植田町農會内)